

## 読売新聞 きょう（9月6日）のイチ押し

### 1面・社会面など 「東京2020+」フィナーレ パラ閉幕

東京パラリンピックが13日間の日程を終了し、新型コロナウイルスの影響で史上初めて1年延期され、原則無観客となった「東京五輪・パラリンピック2020大会」が閉幕しました。次回の2024年大会はパリで開かれます。

- ★ パラリンピックで、日本勢はアテネ大会（04年）の52個に次ぐ計51個を獲得しました。選手らは、「失った者を数えるな。残された者を最大限生かせ」というパラ大会創設者の言葉を体現し、私たちに魅了してくれました。
- ★ 東京開催が決まったのは2013年9月でした。それから8年。新型コロナをはじめ、国立競技場の建設計画白紙撤回や大会エンブレムの盗用疑惑、大会組織委トップの辞任、開幕直前の開閉会式の楽曲担当者らの辞任・解任など様々な困難に直面しながらもついに閉幕を迎えました。

### 1面・2面・3面など 「次の首相は？」 本社緊急世論調査

菅首相の退陣表明を受け、本社は緊急世論調査を実施しました。その結果、有権者が回答した「次の首相にふさわしい政治家」は、トップが河野太郎・行政規制改革相の23%で、石破茂・元幹事長の21%、岸田文雄・前政調会長の12%と続きました。河野氏は「発信力」、石破氏は「人柄」、岸田氏は「改革意欲」がそれぞれ評価されたようです。自民党総裁選は、間近に控えた衆院選の「顔」選びの側面が強く、動向が注目される高市早苗・前総務相や野田聖子・幹事長代行らを含め、今後様々な駆け引きが激しくなりそうです。

#### 他紙と比べて

無理なくすぐに始められるトレーニングを紹介する企画「すぐトレ」（23面）。今回は中国で国民体操として広く愛好されている「太極拳」を紹介しています。ゆったりとした動きながら、呼吸を整え、十分な運動量もあります。コロナ禍の巣ごもり生活で、「体がなまってきたなあ」と感じられておられる方にはおすすめです。